

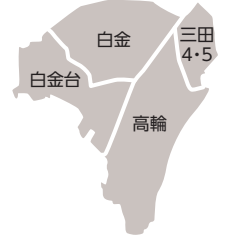
# みなとつぷ

Takanawa  
Community News Magazine

高輪地区情報紙

2017年7月  
Vol.33

三田4・5丁目・高輪  
白金・白金台



発行：高輪地区総合支所 協働推進課  
編集：みなとつぷ編集室

<http://www.city.minato.tokyo.jp/takanawachikusei/takanawa/koho/saishin.html>



## CONTENTS

### 2 地域に生きる音楽

NHK交響楽団演奏所

### 3 この街にこの人あり

尾身 茂さん

(独立行政法人  
地域医療機能推進機構理事長)



### 4 地域のおしあと

### 5 高輪地区の公園、児童遊園②



### 6 地域で活躍する若者たち

明治学院大学空手道部

### 6 地域の自慢

緑の達人たち



### 7 暮らしプレイバック

田中 裕子さん

### 7 みなとつぷ10年の歩み展(予告)

### 8 区からのお知らせ

表紙写真

[タイトル] 夢幻花

[撮影者] 高井 哲朗さん(白金台在住)

## お陰さまで10年

十年ひと昔と言いますが、2006(平成18)年はどんな年だったか覚えていませんか? トリノオリンピックでフィギュアスケートの荒川静香が金メダルを獲り、野球では、第1回WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)で日本代表が見事に優勝した年です。また甲子園ではハンカチ王子(斎藤佑樹)とマー君(田中将大)の熱投が話題になりました。

こんな年に本紙は産声をあげました。最初は「あなたの街」として創刊し、10号からは公募により「みなとつぷ」と改称しました。年3回発行し、今号で33号になります。

編集メンバーは高輪地区総合支所が1年ごとに募集するボランティアスタッフで、創刊以来のメンバーから初参加の人まで20人ほどですが、編集に関しては全員が素人で、区の担当者の方々にフォローしてもらいながら、わいわいがやがやと楽しくかつ真剣に活動しています。

まずは掲載記事の選定です。どんな題材があるか? それはタイムリーな話題か? 取材が必要な場合は先方の了解をいただけるか? 等々を検討しながら決めていきます。また毎回表紙を飾る作品は、高輪地区に在住の多士済々の方々にお願ひして、快く提供していただいています。絵画が多いのですが、写真や版画、書も掲載させていただきました。そして、取材と写真撮影、原稿作成、校正と続きます。読者のみなさまに楽しんでいただくことを最大の目標として作業しています。

みなさまのご協力ご支援のお陰で「みなとつぷ」も満10歳、ようやく情報紙として認知されるようになってきました。そこで「みなとつぷ10年の歩み展」を開催し、その歩みを振り返ってみることにしました。これまで表紙でご協力いただいた方々にも、出品していただく予定です。9月22日(金)から24日(日)まで、高輪区民センター2階展示ギャラリーで開催(7ページをご参照ください)します。どうぞお立ち寄りください。

(担当/梶)



# 地域に生きる音楽 NHK交響楽団演奏所 (高輪2-16-49)

伊皿子坂の中腹に大きな直方体の建物があります。NHK交響楽団演奏所です。地域にNHK交響楽団の演奏所があることを誇りに思っていますが、中の様子が分からないのでどうなっているか興味津々でした。今回、NHK交響楽団演奏制作部業務主幹の清水永一郎さんにご案内いただきました。

## ■NHK交響楽団演奏所とは

日本のオーケストラの最高峰であるNHK交響楽団。定期公演は渋谷のNHKホールや赤坂のサントリーホールで行いますが、練習を行う本拠地は高輪にあります。演奏所の中には、ベートーヴェン「第9」交響曲の練習の際には合唱団まで入ることが出来る広い練習室や2、3名で練習できる分奏室が6部屋あります。さらに、楽器や衣装の倉庫はもちろん、楽員がくつろぐラウンジもあります。

1961年に建てられた建物は2014年に約1年かけて大改装を行い、建物全体の耐震化、空調システムの改善、練習室の音響の向上を図り、練習に集中できる環境を整えました。



ご案内いただいた清水さんと美しいハープ

2階のライブラリには、歴代の楽譜や音源が保管されています。オーケストラでは、同じ曲でも指揮者が違うと全く違う演奏になります。その違いは、指揮者の指示が書きこまれた楽譜に表れます。そこで、書き込まれた楽譜はライブラリに保管しておき、のちに同じ曲を振る指揮者や楽員が参考にするそうです。公演ごとに増えていくこれらの資料は、NHK交響楽団が積み上げてきた歴史であり、後世に繋いでいく資産だということが伝わってきました。



合奏練習が行なわれる1階の練習室

## ■演奏所での練習

2017年3月時点で楽員は117名おり、公演ごとに決まっている指揮者とともに、年120回程度公演を行っています。定期公演や地方公演の他に、NHKの番組で使用するための録音もあるため、演奏所での練習を行うのは年150日程度だそうです。

普段の練習は、10:00～15:15に行います。この時行うのは合奏練習のみで、曲を弾けるようにする練習や同じパート内で合わせる練習は個人的に時間をとって行う必要があるとのこと。定期公演の曲は、なんと公演前に行う3日程度の練習で完成させるそうです。さらに、録音のための演奏となると、当日すぐに録音するということがあります。



特徴的な装飾をされた演奏所外観(写真/NHK交響楽団提供)

## ■入団する難しさ

NHK交響楽団の楽員募集は、現在の楽員が60歳の定年をむかえて退団するなど、枠が空いた時に行われます。タイミングが良くないと希望する楽器の募集がかからないのです。

そして、たとえ応募できたとしても、厳しい審査があります。演奏の一次審査ではカーテンを引いたり、歩く音で誰だか分からないようにじゅうたんを使用したりするほど受験者の公平性を徹底しているそうです。さらに、審査をすべて通過できたとしても1年後の信任投票を経て正式に入団となります。技量もさることながら、他の団員の演奏との調和も必要不可欠なものとのことでした。

## ■港区での地域貢献活動

NHK交響楽団は、地域貢献活動として港区内の小学校、いきいきプラザなどで、小規模な演奏を定期的に行っています。この演奏はとても人気で、場所によっては部屋に入りきらず廊下まで人があふれることもあるそうです。

2015年に大改装が終わった際にも、新しくなった演奏所に伊皿子坂保育園の園児や伊皿子自治会の方々を招いて演奏所でミニ・コンサートを行いました。

また、演奏会のチケットを地域の方が購入しやすいよう、演奏所にはN響ガイド(チケットセンター)があります。お気軽にお立ち寄りくださいとのことでした。

## ■取材を終えて

お話を伺っていて何度も感じたことは、NHK交響楽団が最高レベルのオーケストラなのだということです。1曲に対する練習時間の短さや入団の難しさからひしひしと感じさせられました。

また、地域貢献活動を頻繁に行っていることに感動しました。この楽団が地域に根付いているということがよく分かりました。

(担当/戸部田、土屋、安藤、伊関、佐藤、滝川、畑中、森)



大改装完了直後に開かれたミニ・コンサートの様子(写真/NHK交響楽団提供)



いきいきプラザでの弦楽四重奏の様子(写真/NHK交響楽団提供)



# この街にこの人あり

独立行政法人 地域医療機能推進機構(JCHO)理事 尾身 茂さん

## WHOで西太平洋地域のポリオを根絶しました

人々の健康で幸せな生活実現の為、数々の難題解決に取り組み尾身先生。どんな歩みを経てこられたのでしょうか？

**高校3年生の時、アメリカに留学したのは外国に関心があったからですか**

英語が好きで外交官になるのが夢でした。高校時代の留学体験(1967、68)がその後の自分の生き方に影響を与えたと思います。

アメリカは当時1ドル360円の時代で、その豊かさに、また地域や国を良くするのは自分達の責任だ、という意識が一般の人々にも強いということに驚きました。

**大学は文系に行かれ、その後医学の道を目指したのはなぜですか**

アメリカから帰国すると、日本は学園紛争一色で、第一志望の大学の入学試験が中止になり、また外交官になりたい等と言えば人民の敵と言われかねない雰囲気でした。青春の彷徨の始まりです。都内の大学の法学部に入学。渋谷の本屋で

哲学、社会、宗教などの本を立ち読みする日々が始まりました。そんな中ふと目にとまったのが内村祐之氏(内村鑑三ご子息)の「わが歩みし精神医学の道」という1冊でした。

この本との出会いで突然「医者になろう」との思いに憑りつかれました。両親には無断で大学に退学届を出しました。息子を一流企業の社員にしたいと考えていた父は、激怒し取っ組み合いの喧嘩までしました。受験勉強を始めて数カ月たつた秋、有力新聞の第一面の「自治医科大学という我が国の地域医療のメッカになる医学部が翌春1期生を募集」という記事を見ました。「地域医療」という言葉が悩む心に救世主のように感じられ、自治医大を第一志望にし、運よく合格しました。

**WHO(世界保健機関)に入ることに決心されたのはどうしてですか**

30代後半には、臨床医としての経験も積み、仕事にも慣れてきました。そうした中、ユニセフで働いていた友人が海外から一時帰国し、会う機会がありました。

その友人は「世界には感染症で多くの人が苦しんでいる。臨床医としてひとりひとりの患者さんを助けることも重要だが、WHOで予防接種の仕事をすれば、何千万人もの子どもを助けられる。尾身はそんな仕事をやるべきだ」と勧められ、医師として外交官的な仕事もできるWHOで働きたいと思いはじめました。

**WHOに入るためにどのようなことをされたのですか**

WHOに入るには、欧米諸国の大学院の修士号や、世界的にも名の知れた我が国の研究室で博士号の資格をとる必要があります。幸い母校の研究室がB型肝炎の研究で有名で、そこで研究に没頭しました。ところが、試験管を振るような仕事はもともと不得意で、この時期不整脈が頻発しました。博士号取得後、応募試験を受け、WHOに就職が決まりました。

**WHOに入られてどのような活動をされましたか**

私に任せられたのはアジアにおける小児麻痺(ポリオ)の根絶でした。ポリオ根絶に必要なのは、子どもへのワクチン接種



**【プロフィール】 尾身 茂 (おみ しげる)**  
1949年、東京生まれ。1978年、自治医科大学卒(1期生)。1978年、東京都立墨東病院で臨床研修後、伊豆七島で地域医療に従事。1990年、WHO西太平洋地域事務局で感染症対策部長などを歴任。1999年、第5代WHO西太平洋地域事務局長。2001年、第37回小島三郎記念文化賞受賞(小児麻痺根絶への貢献に対し授与)。2004年、慶応義塾大学特選塾員。2009年、日本政府新型インフルエンザ対策本部専門家顧問委員会委員長、国際ロータリークラブより小児麻痺根絶特別貢献賞受賞。2013年、国立国際医療研究センター顧問。2015年、厚生労働省顧問。2016年、日本政府国際的に脅威となる感染症対策推進チーム 座長。



中国にて子どもへのポリオワクチン接種の様子

と、早期に患者を発見・報告するシステムの構築でした。ところが、言うは易し行うは難しでした。そもそも、ポリオ根絶がアジアで可能なのか、と疑問視する声も多かった。そのうえ、ワクチン購入のための資金が絶対的に不足していました。また発展途上国の地方では、医師はもとより看護師もほとんど居ませんでした。しかし、根絶に関わった各国の関係者の文字通り献身的な努力のおかげで、ポリオ根絶事業開始10年後の2000年に西太平洋地域でのポリオ根絶宣言がなされました。

**WHO事務局長はどのようにしてなされたのですか、またどのような活動をされましたか**



パレデナシオン(前国際連盟本部、ジュネーブ)第66回WHO世界総会の議長を務める(前列中央)

1998年、当時の小泉純一郎厚生大臣からWHOの第5代西太平洋地域事務局局長に立候補しないかという話を頂きました。日本政府をはじめ、多くの関係者の方々の温かい支援を受け、僅差で当選することができました。事務局長として最も思い出深いことは2003年に発生し、あつという間に世界に広まった重症急性呼吸器症候群(SARS)の制圧でした。この間の約半年は夜に目を継いでの緊張の毎日でしたが先ほど話した「不整脈」は皆無でした。こういう仕事が性に合っていたんだと思います。

**パンデミック(世界的ウイルス感染)はこれから起こる可能性はありますか、また、その時の対応はどうすればよいですか**

感染症の大流行は、いつかはともかく、これからも必ず起こります。対応として重要なことが二つあります。一つは普段から起きた場合の対策を準備しておくことです。二番目はいざ起きた時の初期対応を早く行うことです。初期の情報共有が極めて重要です。

**先生が理事長に就任している地域医療機能推進機構(JCHO)はどのような組織ですか**

JCHOは、かつての社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院を合わせた全国57病院、病床160000、医師30000人を含む職員280000人の組織です。医師派遣、総合診療医の育成、地域包括ケアなどを柱に掲げています。港区高輪にある東京高輪病院(以前のせんぼ東京高輪病院)もJCHOに属する一病院で急性期から回復期まで地域に求められる医療を提供しています。

**若者へのメッセージをお願いします**

「得手に帆を揚げよ」という言葉を贈りたいと思います。ところが、何が得手なのかは、若い時には必ずしもわかりません。色々なことを真剣に取り組むことで少しずつわかってくると思います。どんな仕事をやっても、つらいこと、苦しいことはありますが、好きな仕事であれば耐えることができます。

**高輪地区についてどのような感想をお持ちですか**

高輪地区に住みはじめて6年になります。白金台の自宅から高輪の勤務先まで20分歩いて通っています。緑が多くてとてもよい地域だと思います。

特に、白金台幼稚園、三田用水跡、今里地蔵尊のあたりが好きなおところです。

**取材を終えて**

幼稚園時代からやんちゃなお子さんだったそうです。持って生まれたその正義感と行動力が、人々の幸福の為に働く原動力なのだ強く感じました。

(担当/安藤松島吉田、明石、佐藤、鈴木、滝川、森)



### 1 高輪公園 (高輪3-18-18)

#### 江戸時代の景勝地が公園に

第一京浜(国道15号)沿いの品川駅高輪口と泉岳寺間の北側住宅地に高輪公園があり、近くには東禅寺がある。江戸時代、現在の国道東側まで海が迫り景観の良い場所であった。約300年前に東禅寺を始めとした多くの寺院が移転し、周辺には井伊家や本多家の下屋敷もあった。その後、所有者は民間の方から1961(昭和36)年東京都交通局そして港区へと移り、1972(昭和47)年に高輪公園として開園した。



夏には水が流れる入口の水景施設

#### 大人も子どもも楽しめる緑の公園

総面積が5,958㎡と大きな公園で、南側入口には夏に水が流れる水景施設があり、スロープを上がると広場になり、子どもたちが自由に走り回っている。公園中程は多くの樹木がある遊び場で、ブランコや滑り台など7種類の子どもの遊具があり、平日は近隣の保育園児や学校帰りの子どもが利用し遊んでいる。さらに奥に進むと個人所有の頃からあった池やバスケットゴールのある球技エリアがある。

この公園では高輪共和会を中心とした町会などの方々の運営で多くの催しが行われている。春のお花見会、夏には打ち水大作戦、子どもえんじ、町会の親睦暑気払い、そして秋にはお祭りが行われ、防災フェスタも毎年春に開催され地域の方が多く参加している。これらの催しには隣接の高輪いきいきプラザも積極的に参加し、地域と一体になった交流が行われているのも特徴である。

#### 日常の管理は清掃から

公園の管理については、日常の清掃活動が大きな役割を担っている。各公園によって清掃の回数は違うが、ここ高輪公園では週に5回毎朝約2時間程度行われている。この公園は樹木が多く、落ち葉の季節には寒中5人の方が大変苦勞をして清掃をしている光景が見受けられる。



夏の朝、ラジオ体操に集合



秋の午後、池から遊具付近を望む

## 地域のおしあと 地域の憩いの場 高輪地区の公園、児童遊園 その2

高輪地区には各地域に特徴のある公園(児童遊園)があります。32号に続き公園(児童遊園)の紹介ですが、そこには季節による自然の変化と子どもや地域の人々の繋がる姿を見ることが出来ます。



### 2 三田台公園 (三田4-17-28)

#### 区内唯一の遺跡公園

三田台公園は、1978(昭和53)年港区で初めて作られた遺跡公園である。遊具はないが全面が芝生で、藤棚や姫リンゴをはじめさまざまな木があり、大人も子どもも憩える空間となっている。公園内には伊皿子貝塚遺跡から発見された縄文後期の竪穴住居を再現した家屋を中心に、貝塚からはぎ取った貝層断面と、古墳時代の竪穴住居跡が保存されている。

また園内には古くからの井戸があり、震災・火災時の非常用井戸として、整備されている。調査の結果、遺跡から約350㎡の貝層と縄文(早〜晩期)・弥生(中期)・古墳(後期)・奈良・平安・江戸の各時代の遺構・遺物が順番に重なるように検出された。一つの遺跡からこれだけの遺構や遺物が重層的に発見されることは非常に珍しく、同じ場所で時代の移り変わりを知ることのできる貴重な資料として、出土した遺物は港区の指定文化財となっている。



貝層の断面(貝の種類が多いのがわかる)



約4,000年前の縄文住居(模型)



住居模型の内部

### 4 白金公園 (白金3-1-16)

#### 古川沿いにある公園

都道(明治通り)に面し、古川沿いにある公園で、開園は1969(昭和44)年10月だが、古川の護岸の親水化工事にあわせ、2005(平成17)年に全面改修された。面積が1,484㎡のこじんまりした公園ながら川辺にある特徴を生かし、古川の水辺に近づけ、触れ合える場として、親水テラスが設置されている。

テラスに続く階段を下りると水辺に近づけることができるが、テラス内は河川区域となっているため、水位に十分注意が必要となる。なお、氾濫時の事故を防ぐため、水位が足元から1mになると放送が流れ、電光掲示板に「避難してください」の文字が表示されるようになっている。親水テラスを見下ろす場所にはブロンズ像「釣りをしている風景」が見られる。古川は、かつて釣りが楽しめる場所として地域の人々に親しまれてきたことでこの彫像が見る人に往時の記憶を呼び起こしているようにも見える。

園内には、災害時の電力確保のためソーラーパネルが設けられ、非常用のかまどベンチ、スツールトイレなども備えられている。

#### ソメイヨシノ

一方、園の中央には、ソメイヨシノが涼しげにオアシスをつくり、人々の憩いの場となっている。また、花壇では、越前海岸に群生する、福井県の県花でもある、越前水仙の花が楽しめる(見ごろは12〜1月ごろ)。この水仙の球根は縁あって福井県越前村役場(2006年2月1日に福井市に編入)より寄贈された。



親水テラス



「釣りをしている風景」  
作者 安倍千隆



ソメイヨシノ

### 3 高輪森の公園 (高輪3-13-21)

#### 歴史が残してくれた公園

品川駅高輪口から柵榴坂を上がる途中右手奥に高輪森の公園がある。この地は江戸時代には薩摩藩島津家の下屋敷であった。明治時代の後藤象二郎屋敷から宮家所有地となり、1975(昭和50)年当時の所有者であった大蔵省(現財務省)から管理を委ねられた港区が森の遊び場として区民に開放し、2006(平成18)年高輪森の公園として開園した。

#### 自然豊かな傾斜地の遊び場

園内の総面積は4,917㎡で傾斜地には多くの草木が生い茂り、滝や流路などの庭園遺構が残り、自然の地形を巧みに用いて整備された、歴史の深さを感じられる自然豊かな公園である。通常はのんびりと散歩が楽しみ、夏には都会のなかとは思えない木陰の涼しさを感じられる公園である。訪れた方がそれぞれの楽しみ方で過ごすことができ、幅広い年代の方が楽しめる公園である。



公園の上からみた光景



入口から崖を登る親子

#### プレーパークで楽しむ子どもたち

毎月行われているプレーパークの日には公園の姿が一変する。プレーパークは「自分の責任で自由に遊ぶ」を基本に、地域住民団体「みなと外遊びの会」が高輪地区総合支所の支援を得て運営している。開催中は、プレーワーカーやボランティアサポーターが子どもたちを見守っている。普段の公園の禁止事項や規制を少なくし、自然素材や廃材、道具を使って子どもたちがやりたいことに挑戦できる場として開放している。子どもたちの自由奔放な明るい顔と、一緒に楽しんでいるお父さん、お母さんの楽しそうな顔が印象的である。



プレーパークで遊ぶ子どもたち

## 高輪地区 夏・朝のラジオ体操

### A 白金台どんぐり児童遊園 (白金台5-19-1)

夏は7月21日(金)から8月3日(木)まで、近隣4町会合同の主催で午前6時30分より行われる。また、この児童遊園ではこの期間以外にも年間を通してラジオ体操が行われている。

### B 高輪公園 (高輪3-18-18)

7月21日(金)から31日(月)まで、高輪共和会が主催し午前6時30分より行われる。公園の詳細は1で紹介。

### C 泉岳寺前児童遊園 (高輪2-15-37)

泉岳寺の門前にあり、緑がきれいに手入れされており、ほかの公園ではあまり見られない遊具が充実している。マンションに囲まれて立地しているがターザンロープ等子ども達に人気のありそうな遊具が目押しにある。ラジオ体操は7月28日(金)から8月6日(日)まで、高輪車町青年会主催で午前7時より行われる。



泉岳寺前児童遊園のラジオ体操

### D 亀塚公園 (三田4-16-20)

7月21日(金)から8月5日(土)まで、三田台町会主催で午前6時30分より行われる。

### E 三田松坂児童遊園 (三田5-16-8)

児童遊園の入り口に、だるま落しのあるため「だるま公園」とも呼ばれている。四季折々の草花が素晴らしく、4月には「桜まつり」があり、自然を楽しめる環境。ラジオ体操は松坂町会の主催で7月24日(月)から8月25日(金)まで(8月11日〜16日お盆休み)午前6時30分より行われる。



だるまの柱のある三田松坂児童遊園

※AとDの詳細案内は、「みなとっぴ」第32号に掲載



## 地域で活躍する

## 若者たち

## 《今注目の空手道！明学生が活躍中！》

## — 明治学院大学空手道部 —

明治学院大学にある体育会空手道部。近頃、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で正式種目になったことでメディアにも取り上げられ、空手道が注目されています。そこで明治学院大学の白金キャンパスを訪ね、部長の高橋慧涼さんと部員の皆さんにお話を伺いました。



空手道部の皆さん

## 大会入賞の常連！

一定のルールに則り対戦をする対人形式の「組手(くみて)」と一連の動作を演じ競う「形(かた)」とを、それぞれ個人・団体と1競技で4つの種目を楽しめる空手道。礼節を重んじた武道、格闘技です。

明治学院大学空手道部は部員15名で活動しています。大学のリーグであ



剛柔会の大会で11個のトロフィー獲得！

る学連では一部リーグに所属しており、全日本学生空手道選手権大会出場を目標に活動しています。年に多くの大会に参加し、数々の好成績を残しています。中でも、明治学院大学空手道部の所属している「剛柔会(四大伝統流派の一つ)」の大会では入賞の常連で、昨年の大会では組手の種目で個人1位から3位を明治学院大学が独占、そして総合優勝を果たし、2連覇を達成しました。



気迫あふれる組手練習

## 港区でも活躍！

毎年、春・秋に開催されている港区空手道大会にも参加しており、それでも入賞を果たしています。港区には空手道部のある大学が少なく対戦相手も経験豊かな社会人が多い中、明治学院大学空手道部は個人戦での準優勝をはじめ好成績を残しています。

## さらなる飛躍を秘めた空手道

最近では競技人口も増え、小学生くらいの子たちは自分がオリンピック選手になるんだと頑張っている子が多いそうです。港区からも優秀な人材が育つことを期待したいです。

真摯に質問に答えてくださった高橋部長をはじめとする空手道部の皆さんの生き生きとした活動の姿が印象的でした。これからも明治学院大学空手道部の活躍と日本の空手道の発展にますます目が離せません。

(担当/岩本、戸部田、若生、梶)

## 地域の自慢

## 緑の達人たち

街で見かける美しく手入れされた花や緑。どのような方が育てているのでしょうか？今回は、希少品種を含め、たくさんの牡丹を育てている達人に伺いました。



赤一淑婉、ピンク一花の里

## 我が家の庭の牡丹苑

花言葉は「風格」「富貴」。古来より「百花の王」などと呼ばれ、愛されてきた牡丹。この地区にお住いのT.Iさんは、約70品種の牡丹を15年ほど前から育てています。

## いろいろな品種が揃っています

建物に囲まれ、限られた土地の活用法を考えるうちに、定年後の趣味の一つとして、また花好きだった亡き母のことを想い、牡丹を育て始め

ました。その後、日本一の牡丹産地である島根県松江市(大根島)で、牡丹栽培をしながら新しい品種づくりをされている松本康市さん(「日本ぼたん協会」会長)と知り合い、どうしたらうまく育てられるかを教えてもらいました。その後、彼が、面白い品種が出来ると送ってくれるようになり、珍しい品種も増えていきました。

## 手間をかけて綺麗に咲かせます

牡丹の苗は、実生もありますが、一般的に芍薬しやくやくの根に牡丹の芽を接いで作られます。秋に苗を植え付け、春に花が終わると感謝の施肥をし、芽かきを行い、秋に剪定・植え替えなどをします。日照や通風に恵まれていないうに、鉢植えで品種も多いため、根気と手間が必要です。鉢を移動させたり、日陰を作ったりして、日射量を調整します。また、湿度計を置いて水やりの目安にしています。栽培の難しさをチャレンジと考えて、一株一株大切に育てています。

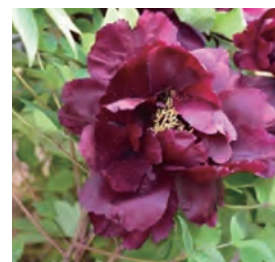
苦労した分、一株に三つ四つと綺麗に咲いてくれると喜びもひとしおです。でも、最近の気温上昇などの環境悪化で、花が早く咲いたり、咲きにくくなったりしてきたように思います。これ以上、環境が悪化しないように願っています。



獅子頭



黄冠



紫雲殿



王妃

前述の大根島では、冷蔵室を使って温度管理をすることで、春に咲く牡丹を正月頃に咲かせる工夫を新たに始めています。牡丹栽培の楽しみはつきません。

花を育てていると、花には人を癒し勇気づける力があると感じます。

※個人宅のため、お名前やご住所は匿名とさせていただきます。

(担当/佐藤、土屋、鈴木)





笑顔が素敵な田中さん

**学生時代〜専業主婦の思い出**  
 小学校4年生の時白金小学校に転入し、その後女学校に進学しました。女学校2年生の時は恩師の影響で世界史や哲学を深く学びました。

「陸の孤島」などと言われていましたが、実際は駐車できる広い土地があり、国道が通っていましたので、町工場として便利で栄えていました。朝鮮戦争の影響も大きかったと思います。

父が仕事一筋の人で休日も出勤していたため、自然と父の仕事を手伝うようになっていきました。注文されたネジを姉妹でセットした時のことをよく覚えています。

**生きがい**  
 生きがいは仕事に加え、家族とゴルフです。娘たちは助け合う事が多かったので大変仲がよく、今でも家

趣味でパイオリンを嗜んでいたのもこの頃です。その後大学に進学し、卒業後すぐに結婚して家に入り4人の娘を授かりました。子ども中心の生活にはなりませんが週2回ほどの家業の手伝いは続けていました。毎年冬は娘全員にセーターを編み、季節ごとのレース編みのテーブルセンターを手作りで用意しておりました。娘たちには好きな進路に就いてほしかったので自宅学習の環境を整えました。その結果、子どもたちの成績も自然と伸び、文系か理系の大学に進学すると思っていきましたがまさか長女以外の3人が体育大学に進み、教師になるとは思っていませんでした。今は孫達に囲まれ幸せです。

**45歳からキャリアウーマンの道**  
 45歳の時に離婚し家業の手伝いをフルタイムに変更し、ネジ業界で数少ない女性の営業職となりました。当時は客先に向向いても良い反応をもらえず、信用を得る為にナット一つの注文でも自分で車を走らせました。お客様にとっては母親世代であり話しやすかったのもあったのでしよう、世間話などを交えるうちに徐々に信用してくださるようになり、少しずつ契約や注文が増えていき、いつのまにか仕事が増えていくようになりました。

これからは、娘たちとゆつくり旅行に行きたいと思っております。白金は交通の便が良いので旅行にも行きやすく、幼い頃から慣れ親しんでいたのに住みやすいです。そんな白金でこれからも過ごしていきたいと思っております。



(担当/鈴木、安藤、渡邊、土屋) 毎年撮影する家族写真



女子プロゴルファーのパネル前で

家族には愛犬もおります。今は4代目のシーズーの太一くんです。もう15歳になる老犬なので、毎日愛犬の介護をしています。ゴルフは10年前に始めました。暇を見つけてはゴルフ場に通い、スポーツが苦手な私でも長く続いています。いつか娘とプレイするのが楽しみです。

趣味でパイオリンを嗜んでいたのもこの頃です。その後大学に進学し、卒業後すぐに結婚して家に入り4人の娘を授かりました。子ども中心の生活にはなりませんが週2回ほどの家業の手伝いは続けていました。毎年冬は娘全員にセーターを編み、季節ごとのレース編みのテーブルセンターを手作りで用意しておりました。娘たちには好きな進路に就いてほしかったので自宅学習の環境を整えました。その結果、子どもたちの成績も自然と伸び、文系か理系の大学に進学すると思っていきましたがまさか長女以外の3人が体育大学に進み、教師になるとは思っていませんでした。今は孫達に囲まれ幸せです。

4人の娘さんを育てながら、営業職として男社会のネジ業界で活躍し、現在も会社の中心となって働いているパワフルな田中さんの人生の過ごし方を伺いました。

# 今でも現役、ネジ業界で活躍!



お話を伺った人 **田中 裕子**さん (68歳・白金4丁目在住)

**山形から家族5人で上京**

1956(昭和31)年、父が

独立し白金で田中ポールの

店を始めたことをきっかけ

に小学2年生の時に上京しました。当時

の白金は交通手段が車しかなかったため

「陸の孤島」などと言われていま

しが、実際は駐車できる広い土地があり、国道が通っていましたので、町工場として便利で栄えていま

した。朝鮮戦争の影響も大きかったと思

います。

父が仕事一筋の人で休日も出勤

していたため、自然と父の仕事を手

伝うようになっていきました。注文

されたネジを姉妹でセットした時の



## 高輪地区情報紙「みなとっぶ」10年の歩みと表紙を飾ったアーティスト展を開催します!

高輪地区情報紙「みなとっぶ」は、2006(平成18)年度に創刊し、区民編集メンバーと共に「地域

の話題」や「地域で活動している方」を紹介し10年以上が経ちました。今回、一つの節目として、過去に「みなとっぶ」の表紙を飾ってくださったアーティストの方々にご協力をいただき、その作品などを展示します。

高輪地区を拠点にして創作活動をしているアーティストの作品などを数多く見ることのできるまたとない機会です。皆様お誘いあわせの上、ぜひお越しください!

### 出展アーティストによるお子さま向けのワークショップも企画しています。

- 「書で遊ぼう」書家の國兼凜仙先生と一緒に参加者全員で大きな作品を作ります。
- 「オリジナルのマスクを作ろう」画家の小川エリ先生に教えてもらいながら自分だけのマスク(お面)を作ります。
- 今井みどり先生の折り紙作品を使った紙芝居



今井みどり先生の折り紙作品

詳細は、港区ホームページや広報みなと(9/1号)に掲載する予定のほか、公共施設等で配布するチラシをご参照ください。(9月上旬ごろ予定)

#### 【問合せ・事務局】

高輪地区総合支所協働推進課 地区政策担当 TEL:03-5421-7123

日時

9月22日(金)~24日(日)  
 各日 午前10時~午後5時

費用

入場無料

場所

高輪区民センター2階 展示ギャラリー

#### 出展予定アーティスト(敬称略、50音順)

相羽 高德 (空間プロデューサー、アートディレクター)	阿部 慎藏 (画家)	今井 みどり (画家)
小川 エリ (画家)	國兼 凜仙 (書家)	佐伯 庄吾 (画家)
友枝 昭世 (能楽師)	中島 千波 (日本画家)	原田 維夫 (版画家)
		高井 哲朗 (写真家)
		三嶋 禮雄 (画家)



買い物するなら地元の商店街で

区からのお知らせ

祝! 港区商店グランプリ受賞!!

港区商店グランプリは、港区、港区商店街連合会、港区商店街振興組合連合会が共催で開催しています。経営・接客・外観・店内装飾等を総合的に審査した結果、高輪地区にある次の4店舗が受賞されました。皆さんもぜひ一度、受賞店を訪れてみてください。



ベッカライ ブラウベルグ

港区政70周年記念大賞

白金商店会 ベッカライ ブラウベルグ (白金 3-9-6)

港区議会議長賞

白金北里通り商店会 白金スイーツ (白金 5-12-17 三福ビル1階)

東京商工会議所港支部会長賞

プラチナビルズ商栄会 Cafe Kuromimi Lapin(カフェ クロミミ ラパン) (白金台 5-17-8 2階)

優良賞

白金プラザ会 蕎麦酒房 千年(白金 1-17-2 白金タワー テラス棟)

～高齢者を地域で見守ります～

認知症高齢者おかけりサポート事業を開始します

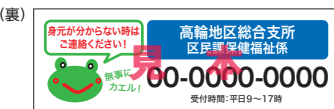
あらかじめ氏名や緊急連絡先などを登録し、登録番号の入ったアイロンシールやキーホルダーを身につけることで、行方不明時に迅速な身元確認や緊急連絡先への連絡が可能となります。

※電話対応時間は、平日9～17時となります。

アイロンシール



キーホルダー



対象

高輪地区内在住の65歳以上の区民で、認知症等による徘徊のおそれがある方

費用

無料

内容

登録番号が入ったアイロンシール(50枚)とキーホルダー(1個)を配布

【問合せ・申請先】 高輪地区総合支所区民課 保健福祉係 TEL:03-5421-7085

平成29年度「プレーパーク」を開催します

プレーパークとは…

子どもが「自分の責任で自由に遊ぶ」ことを大切にし、普段の公園での禁止事項を少なくして、道具や廃材、自然環境を使って、自分のしたいことに挑戦できる遊び場です。遊びを通して子どもたちが豊かに育つことを願い、高輪地区、芝浦港南地区、麻布地区で開催しています。

高輪地区、芝浦港南地区では、平成28年度から地域住民団体「みなと外遊びの会」が運営しています。港区では、プレーパーク運営に関わる地域サポーターを募集しています。詳しくは、「みなと外遊びの会」のFacebookをご覧ください。



●直近の開催予定(高輪地区) 参加自由

Table with columns for location (高輪森の公園, 亀塚公園), month (7月, 8月, 9月), and date (23日, 27日, 24日, etc.).

※小雨決行、荒天中止。当日の開催状況についてはみなとコール(03-5472-3710)へ。

【問合せ】 高輪地区総合支所協働推進課 まちづくり推進担当 TEL:03-5421-7664

あなたのまちの町会・自治会で活動してみませんか?

町会・自治会は、住民の皆さんに一番身近な自治組織で、まちの防災、清掃、パトロール、お祭りなどを実施しています。

少しずつの参加で構いません。まちの安心・安全やコミュニティ作りのお手伝いに興味がありましたら、お気軽にご相談ください。

町会・自治会への加入をご希望の方は、港区ホームページや各総合支所協働推進課窓口で配布しているリーフレット記載の「町会・自治会加入希望票」にて、お申し込みください。

【問合せ】 高輪地区総合支所協働推進課 協働推進係 TEL:03-5421-7621



予告 子ども記者を募集します!

「あっぷリング高輪フェスティバル」の開催に合わせて、「みなとつぽ子ども編集室」を開設します。

子ども記者が作成した記事は、本紙第35号(平成30年3月発行予定)に掲載する予定です。



- 日時: 11月11日(土) 午後1時から5時30分(予定)
対象: 高輪地区の子どもたち(小学校1年生から中学校3年生まで)
募集人数: 数名程度(小学生の場合は保護者の付き添いが必要です)
募集方法: 詳細は、港区ホームページや広報みなと(9/11号)に掲載する予定のほか、公共施設等で配布するチラシをご参照ください。(9月中旬ごろ予定)

【問合せ】 高輪地区総合支所協働推進課 地区政策担当 TEL:03-5421-7123

本紙のバックナンバーは港区ホームページ(高輪地区総合支所のページ)からもご覧になれます。 みなとつぽ バックナンバー

編集だより

初執筆の方の記事が新鮮です。みなとつぽ編集メンバー益々充実してきています。これからもご期待ください。(安藤)

公園の取材で地域の公園に出かけてみると、どの公園も早朝からきれいに清掃されています。とてもさわやかな気持ちになります。(土屋)

WHOで活躍された尾身茂氏がその半生を語る姿に親しみやすさと情熱を感じました。(吉田)

地域医療に貢献している、JCHO理事長尾身先生にお会いして、有意義なお話をたくさん伺うことが出来、深い感銘を受けました。(明石)

公園を特集して、各公園ともいろいろ工夫がされていることがわかりました。皆の善意が集まっているところだと感じました。(伊関)

初参加ながら取材から編集まで携わらせていただきました。皆様のお陰でこうして形にすることができ嬉しさでいっぱいです。(若木)

公園のある場所には様々な歴史があります。ラジオ体操に行き、昔の姿を想像してみてください。(太田)

初参加。大学生からシニアまでの有志メンバーが一言一句こだわって、喧々譁々、一進一退の編集会議。今号もメンバーの愛情とこだわりの一冊です。(大西)

「みなとつぽ」の編集に携わって5年目。最近特筆すべきは新加入メンバーの頑張りです。紙面が刷新されていく実感を楽しんでいます。(梶)

美しい花や庭に心を動かされるのは、それらを育てる人の想いが込められているからなのだと感じました。(佐藤)

初めての参加でしたが初執筆しました。周りのご協力がありなんとか記事にすることができました。楽しんで読んでいただければ幸いです。(鈴木)

近くに住みながら何となく近寄りたがたいN響でしたが、取材で訪問し、有意義なお話をお聞きし、とても身近な存在になりました。(滝川)

今号が初の執筆となりました。大好きな音楽に関する内容だったので、気持ちのこもった記事になりました。(戸部)

窓一つないN響の建物は幼い頃から不気味な存在に感じていましたが、今回取材で内部を覗くことができました。それは驚く程素晴らしい音の世界でした。(畑中)

お話を伺った方の思いを、文章で記事にするのは、難しいことです。正確に読者の方に伝わっているか、読者目線も気になります。(松島)

世界的にも評価の高いNHK交響楽団の演奏が、身近な地域のイベントで楽しめることに驚きました。(森)

初めて学生主体で記事を書かせていただいたので、より一層みなとつぽへの思いが深まりました。(若生)

※この情報紙は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。

事前にご確認ください。

区民課窓口サービス係 5421-7612 / 保健福祉係 5421-7085